

# 台湾新聞

TAIWAN NEWS ◆ 2017年3月6日号 東京発行 NO.239

発行元: 有限会社 台湾新聞社 〒171-0021 東京都豊島区西池袋 4-19-4 TEL: 03-5917-0045 FAX: 03-5917-0686 http://www.taiwannews.jp E-mail: info@taiwannews.jp  
■定期購読をご希望の方は台湾新聞社までお問い合わせ下さい。 定価 350円(税込) 定期購読 12回: 3,500円(税込) / 24回: 7,000円(税込) ©郵便振替: 00140-4-594168

日本と共に半世紀

24時間ご利用可能なオンライン航空券  
「楽GO」運賃【成田・関空出発】(45日前購入)  
往復14,500円〜/片道7,300円〜  
※空港建設税・燃油特別付加運賃別途。2016年12月時点運賃例。  
◎その他にもお得なオンライン航空券を取り扱っております。

CHINA AIRLINES

## 姉妹締結で花卉輸入の活性化に拍車

日本切花輸出入協会と台湾区花き輸出業同業公会は2月13日、都内ホテルで姉妹会締結の調印式を行った。同式で日本切花輸出入協会の西尾義彦会長と台湾区花き輸出業同業公会の林欽勝理事長は覚書を取り交わした。日本切花輸出入協会の海外会社との姉妹締結は初とみられる。

同締結は、両会協力のもと、日本と台湾の花の発展に貢献する事を目的としたもの。過去5年間、台湾から日本への花卉の輸出量は30%減少しているため、日本側のニーズを台湾側に発信するなど、両国の関係を深め、お互いの利益を増やしていく方針だ。

同式で西尾会長は、「今後どのようにして台湾から日本への輸出が上がるか、日本側も一緒に勉強し、将来に結びつけたい。やり方によってはまだまだ伸びる」とコメント。また林理事長は、「台湾ブランドの花の知名度を更に広げて日台の花の発展に努めたい。皆

の賛同を得ながら一つ上のステップに上がっていきたい」と締結後の意気込みを語った。

同式には、台北駐日経済文化代表処経済部の張厚純部長や台湾貿易センター東京事務所の呉俊澤所長も出席し、締結を祝った。

締結後の主な活動は、定期的な交流活動をはじめ、花育の推進、異業種のタイアップ、マーケット拡大に向けたPR、さらには2国間の友好発展に力を入れていく構え。

また西尾社長は、「日本ではどの種類の花のニーズがあるか」との問いに対し、「熱帯植物である小さい胡蝶蘭に需要があるのではないかと答えた。さらに「大きい胡蝶蘭は結婚式やお葬式などの使用に限られるが、小さいのであれば一般家庭にも卸す事ができる」とし、「今後は日本側のマーケットの情報を知ってもらい、台湾側の生産者にも利益になるように協力していきたい」と語った。



TOPIC

日本語版

- 橋本委員長が二つの新たな政策に言及〜本紙独占インタビュー〜 2面
- Mayday 再び武道館ライブで2万人熱狂 6面

中国語版

- 吳新興訪閩西、名古屋、東北 了解書情 表達新政府立場 1面
- 2017東京馬拉松 台灣不缺席 5面
- 台灣祭 8面

WEBでもニュース記事が読めます  
<http://blog.taiwannews.jp/>

南国料理で宴会プラン楽しく歓迎迎会!!

予約電話: (03)5215-2537

## 『台北ノート』、豪華キャストで世界初公演



平田オリザ監督と台北を拠点とする「盗火劇団」とのコラボレーション作品、「台北ノート」が2月15日、16日の2日間に渡り、横浜美術館で世界初演となる舞台を上演した。「東京ノート」を代表作に持つ平田オリザ監督が、一昨年に台北芸術祭に参加以降、交流が深まり同舞台上演へと繋がった。今後、台湾でも上演する予定だ。

同舞台は「盗火劇団」によって制作され、250人以上が応募したオーディションの中から実力派20人がキャストとして選ばれた。そのなかに映画主演女優や演劇界で有名な俳優、さらに台湾映画「海角七号」で主演した日本人の田中千絵さんも選ばれているなど、豪華メンバーとなっている。約2か月間の練習期間中は、平田監督自ら台湾に住み込み、台本の確認や稽古に付き添った。

同作品の舞台は近未来の美術館のロビー。戦争から避難してきた絵画を前に人々が繰り返す断片的な会話から、現代社会の問題や危機があぶり出される物語となっている。オーバーに表現する一般的な演劇とは違い、日常生活での自然な様子が描写されているのも魅力である。

16日には、平田監督と台北芸術祭のケン・イーウェイ芸術監督のトークショーが行われた。平田監督は、「良い作品を作るのはもちろんのこと、私の方法論を海外の人にも理解して欲しい。台湾の俳優の素晴らしさを日本人に伝えたい。そして、『台北ノート』を中国語圏、あるいは世界中を回り、台湾の財産になるような作品にしていきたい」と話した。またインタビュー時には、「韓国はドラマ等がいま日本に普及しているが、台湾人は演技レベルが高いのに日本人は知らない。この作品を通じて日本人に知ってほしい、政治等は関係なく、芸術作品で文化の交流をしてほしい」と強調した。

なお、同舞台のプロデューサーは「盗火劇団」の謝東寧芸術監督が務めた。謝さんは、「文化交流の良い機会だった。台湾人と日本人が一緒に舞台上で立つ上で、人も違えば、文化も違うので、大変な部分も少々あった。秒数でカウントして動作を合わせる等、日本人の演技の

仕方を見て刺激になった。超大物俳優が勢揃いした舞台なので、台湾で上演する時は一瞬でチケットが売り切れてしまうだろう」と裏エピソードを交えながら想いを語った。

また、台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表、台湾文化センターの朱文清センター長、台北駐日経済文化代表処横浜分処の粘信士処長も同舞台を鑑賞した。

「東京ノート」は現在、15か国語に翻訳され世界各地で上映されるなど、世界でも話題を呼んでいる舞台である。台湾をはじめ、今後はアジアの国々とコラボレーションした作品を制作し、「20年の東京五輪には、各国よりメンバーを集めてインターナショナル版を制作したい」と平田監督は意気込みを語っていた。

「台北ノート」は現在、15か国語に翻訳され世界各地で上映されるなど、世界でも話題を呼んでいる舞台である。台湾をはじめ、今後はアジアの国々とコラボレーションした作品を制作し、「20年の東京五輪には、各国よりメンバーを集めてインターナショナル版を制作したい」と平田監督は意気込みを語っていた。



## 「台北賓館」が最大級の氷像 札幌雪祭りに登場!

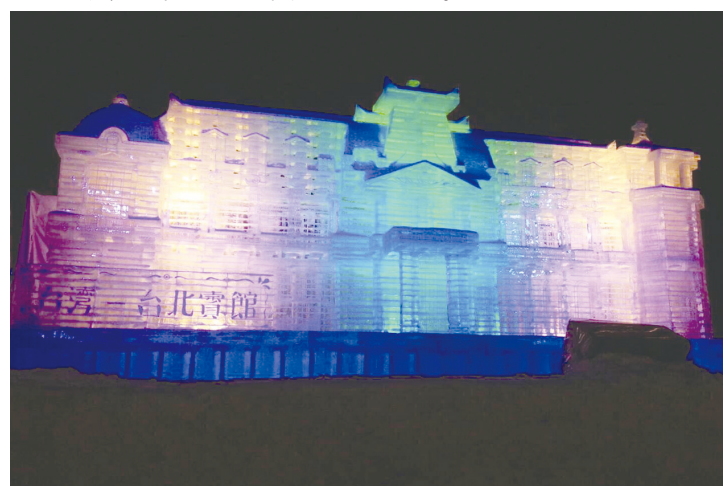
台北市にある台湾総督官邸の「台北賓館」が、2月6日から11日まで北海道札幌市で開催された「第68回さっぽろ雪まつり」に氷像としてお目見えした。

同氷像は、1901年に日本人設計者によって建てられた「台北賓館」をモチーフにしたもの。横幅18メートル、奥行き16メートル、高さ10メートルで、1本約135キロの水柱800本あまりを組み合わせて作られ、今年の会場の氷像としては最大規模だった。氷像製作は日本氷彫刻会札幌支部の支部長らによって手掛けられ、約250人が参加、途中、大雪や大雨等厳しい環境に見舞われたが、2週間余りで完成に至った。彫刻により、建物の細かい部分まで再現され、昼間は太陽の下で水が透き通り青く光り、夜はライトアップにより幻想的に見える作品だ。

初日には台北賓館氷像前で開幕式が行われ、台北経済文化代表処の謝長廷代表、駐日代表処札幌分処の陳桎宏処長、北海道日台親善協会連合会の加藤礼一

長、札幌市の町田隆敏副市長、毎日新聞社の丸山昌弘社長らが参加し、テープカットを行った。謝代表は、「台湾の文化や国家古跡とも言える台北賓館を世界の観光客に見て頂きたい。また、これから台湾ではランタン祭りが始まるので、この氷像をきっかけに台湾に興味を持って、ぜひ台湾を訪れてほしい。北の北海道と南の台湾の交流が深まる事を期待している」とコメントした。

なお、台北賓館は、東西の建築様式を融合した建物であり、台湾の国家古跡に指定されている。現在は台湾の国家招待所「迎賓館」として使用され、年に数回一般公開もされている。



台北賓館の氷像

プラスの力になる

続けて読むから「台湾」が解る  
台湾のとれたて情報を毎月お届け。

台湾新聞

年間定期購読

毎月第1月曜発行

お得01 送料無料でお届け!

お得02 1年契約で700円お得!

※12回発行で購読料3,500円(1部350円×12=4,200円)

～お申込みはかんたんです(住所・電話番号・お名前・契約月)～  
お申込み窓口 (TEL03-5917-0045 FAX03-5917-0686) まで  
メールでも受付中! (info@taiwannews.jp)

絶賛発売中!!

台湾あります

日本で堪能できる台湾料理のお店を厳選して掲載しました。

店頭で使えるおトクなクーポン付き

家でできるかんたん台湾料理レシピ付き

Delicious Taiwan vol.2  
日本で食べる! 本場のおいしい台湾料理

お問い合わせ  
台湾新聞社 台湾新聞編集部  
03-5917-0045 info@taiwannews.jp

¥1,500+税

EVA AIR 5 STAR AIRLINE SKYTRAX

エバー航空  
航空業界 最高評価  
SKYTRAX 5スターエアライン

エバー航空についてのおトクな情報はこちらをチェック!

HP Twitter Facebook

# 茨城県知事に本紙社主が表敬訪問



茨城県の橋本昌知事(左)と台湾新聞社の錢妙玲社主(右)の顧問として、熊本と台湾新聞社(錢妙玲社主)は2月20日、茨城県庁を訪れ橋本昌知事を表敬訪問した。茨城県と台湾の交流促進に向け会談した。

橋本知事は、昨年3月に就航した台湾の格安航空会社(LCC)・Vエアの茨城-台北便が約半年で運航を停止した事に言及し「乗客数は多かったにも関わらず、Vエアが運航停止した事はとても残念だった。現在、他社でチャーター便の復活を予定している」と述べ、茨城空港の活性化に向けた施策の一つとして、台湾との交流促進に意欲を示した。

同県空港対策課によると、5月初旬(4日と7日)に遠東航空での茨城-台北便のチャーターを検討しているが、それ以降は未定という。橋本知事は「単発ではなく、持続的に台湾との航空便を就航したい」と台湾向けの運航に期待感を寄せた。

これに対し錢社主は、自身が熊本電鉄台湾との観光や経済交流促進を実現させた実績を踏まえ、「熊本もチャーター便から始まり、現在ではチャイナエアラインで定期便が就航するまでになった。茨城でもこれは可能だと思ふ。今後、台湾で茨城の存在をさらに認識して頂けるよう、PR活動など、様々な面でバックアップさせていただければ」と述べた。さらに、今年の7月7日から9日まで上野公園で実施する「日本台湾祭り2017」も紹介し、茨城からの出展など協力を求めた。橋本知事も「茨城県の関係する市ベースでのブース出展を含め、県として対応策を検討

たい」と意欲を示した。

また、橋本知事は、茨城県は技術研究の最先端であるとし、つくば市の約23万の人口のうち、約2万人が研究者である事を強調し、今後、台湾と茨城間の研究者や企業間での交流の可能性にも言及。「台湾新竹市とは所縁が深い。技術者は筑波大学の卒業生が多い。交流をさらに発展させたい」と強調した。

なお、錢社長一行は同県の山口やちよ副知事も同時に表敬訪問し、親交を深めた。山口副知事は、台湾は女性が働きやすい環境である事などにも関心がある事を話したほか、台湾を訪れた際の思い出なども披露し、「今後も台湾と様々な形で繋がって行きたい」と述べた。



会談の様子

# 僑務委員長が二つの新たな政策に言及

## ~本紙独占インタビュー~



僑務委員会の呉新興委員長

蔡英文總統が昨年5月20日、中華民國の總統就任時と同時に僑務委員会の新委員長に呉新興氏が就任した。台湾新聞はこのほど、新委員長の呉委員長に独占インタビューを行い、今後の僑務委員会についての想いや政策について聞いた。

呉委員長は、政権交代後の僑務委員会の仕事内容の変化や改良した部分について「政権が交代したとしても『全世界の華僑を守る』とする基本理念は最も大事な仕事であり、これからも明確な目標だ。蔡總統からも強調されておられ、さらに華僑を配慮するように指示された」と述べた。現在、委員長就任後約八か月が経過したが、この基本的な仕事に加え、新しい政策を推進していると、二つを例に挙げた。

一つ目は、台湾の学生をグローバルな若者にする事。台湾の学生が海外で勉強や業務に従事して欲しいとする考えの下に、これ

には各国の華僑の力が必要だとした。「台湾留学生が海外に趣いた際の仕事の提供及びホストファミリーとして受け入れて欲しい。また、方が一留学生在に予期せぬ事象が起きたり苦境に陥ったりした際、華僑界の力で支援して欲しい」と各国の華僑は政府と一体となつてこの政策促進をするよう訴えた。

二つ目は「新南向政策」。東南アジア地域に力を入れていく蔡總統の政策の下、僑務委員会として東南アジアの僑生(華僑の親から生まれた子)が台湾の大学に留学を促す様に、生徒募集に力を入れる施策を打ち出した。さらに4年後には、僑生の生徒数を現行の2倍から3倍に増やす計画も目論んでいる。呉委員長は、台湾の学生と僑生が今後一体となり、密接な関係になる事がこれからの課題であると強調した。

### 日本の華僑に台湾投資期待

一方、「日本在住の華僑も台湾にとって重要なキーとなっている」と呉委員長は言う。その上で呉委員長は、日本の華僑が台湾へ戻り投資や起業に対する期待感を示した。「良い投資環境や投資機会を考察するために台湾に来て欲しい。困った事があつたら僑務委員会に連絡してくれたら必ず力になる。これは全世界共通である」と呉委員長。

また呉委員長は、日本の華僑が日本の経済、社会、文化面での発展に貢献できるように応援したいと話した。

なお最後に、日本と台湾の関係は「ご近所」であるとし、「今後さらに両国の関係が密接になって、多くの日本人が台湾に観光や旅行に来て欲しい」と語った。

# 新年会で日台友好交流!

日台経済文化交流協会は2月8日、ホテルモントレ横浜で新年会を開催した。同会には、台北駐日経済文化代表処横浜分処の粘信士処長、横浜華僑総会の羅鴻健会長、横浜市経済局の林琢巳局長、三井不動産横浜支店の徳川浩一支店長らが来賓として参加。旧暦の新年を祝した。

会は両国の国家斉唱から始まり、歓談となり、途中にはゲームも行われるなど豊富な内容だった。参加者同士、国に関係なく十分な交流を満喫していた。

式の冒頭、主催者の上村直子会長は、「今日は台湾からのお客様も来て頂いたので、今回は難しい事はなく、おいしい料理と会話で過ごして、皆さん楽しんでいってほしい」と挨拶した。また、同会名誉顧問でもある粘処長は、「今年はたくさん良い事があつた。1月1日より対台湾窓口機関の名前が『日本台湾交流協会』と改称され、これは日本と台湾にとって大事な一歩である。もう一つ良いニュースは、卓球の福原選手が2月、台湾の江選



手とディズニーランドで結婚式を挙げた。これは愛情の力であつて、政治の力をはるかに超えたもの。さらに昨年台湾から訪日した数は400万人を超え、台湾観光客は日本で5260億円消費して日本の経済に貢献した」と、近状報告を交えて新年を祝した。

なお、今年は4人の台湾人留学生も同会に参加し、参加者と交流を図つた。留学生の黄さんは、「初めてこういう会に参加してとても楽しかった。皆が、何かしら台湾に関係がある仕事をしたり、台湾に住んでいた人ばかりで、昔の台湾の話をしてしたりして親近感が湧いた」と、普段ではあまり経験できないようなこの会に参加できた事が嬉しいと話した。

# 亜東親善協会、交流協会 名称変更で気持ちを新たに



平成29年 一般社団法人 亜東親善協会新春互礼

一般社団法人「亜東親善協会」は2月2日、都内ホテルで講演会及び新春互礼会を行った。同会には、台北駐日経済文化代表処の張仁久副代表、日本台湾交流協会の柿澤未知総務部長、台北駐日経済文化代表処横浜分処粘信士処長らが来賓として出席した。

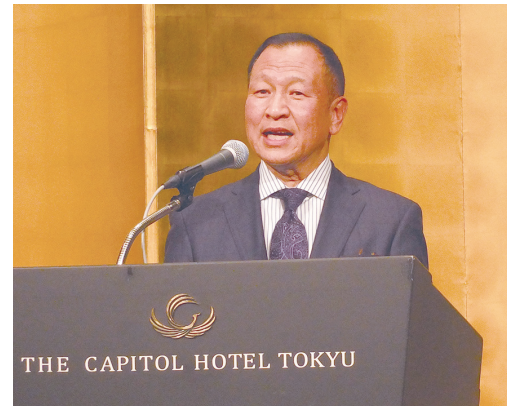
冒頭、亜東親善協会の大江康宏会長は、「『日台の交流、友好、親善を、何よりだ』と思つてくれる方々がこの協会を支えてくれた」と来賓に対して感謝の意を表し、「これからの日本安全保障や国益を守るためには、台湾の存在は必要不可欠である。台湾とこれからどうやって向き合っていくのかを、我々自身がしっかりと心の中に持ち、発信していかなければならない」とコメントした。

来賓の張副代表は、「西暦は一般的には変

動の大きい年とも言われているが、運を取り込むという縁起の良い事もある。いかなる挑戦も屈する事なく、堅実な道を進んでいきたい。そのためには日台で手をがっちり組んで、経済、政治、文化面での関係を発展していきたい」と今年の決意を述べた。柿澤総務部長は、「交流協会は、もっと多くの人にこの組織や活動を認知してもらい、一緒に日台の関係を作っていく組織にならなければならない。そのため名称変更が必要となつた」と、先日「日本台湾交流協会」に名称変更を行った事に言及し、「ただ、名称変更は一つの形にすぎず、もっと日台関係においてやらなければならない事はたくさんある。老舗にもう一回看板を掛け直して気持ちを新たに組み、『老店新開』の1年にしたい」と名称変更の思いを語った。さらに、亜東親善協会の大江会長に会の名称にも「日本台湾」と入れて名称変更する可能性があるか問うと、話を濁す場面もあつた。

また、柿澤総務部長は、昨年、日台双方の往来が600万人を超えた事を取り上げ、なかでも、若者の交流の活発化、自治体の緊密な交流化に拍車がかかっていると話した。加えて、修学旅行先に台湾を選択する日本の高等学校が軒並み増加していると指摘。昨年一年間、台湾に訪問した修学旅行生は3万6千人に達し、この数は米国への修学旅行の総数を初めて上回つた、と説明した。こうした台湾の高校生と交流した事実は、日台の関係において非常に財産になると話した。一方、自治体の交流については、昨年19人の知事が台湾を訪問しており「緊密な地方自治体間での交流を図っているのは台湾だけ」とした。

なお、互礼会の前に行われた講演会では、元防衛事務の守屋武正次官が講師を務め、「トランプ大統領と日米安全保障」を演題に講演を行った。



挨拶する大江会長

# IH企業、日本市場から東南アジアへ

ホスピタリティとフードサービスの商談専門展示会「HCJ2017」が2月21日から2月24日まで東京ビックサイトで開催され、台湾から「SEF TECH」、「MOSA INDUSTRIAL CORPORATION」、「Taiwan HORECA」など5社が出展した。



「SEF TECH」(羅漢清社長=以下: IH)は業務用電磁調理器のメーカーで、出展は今回で18回目を数える。羅社長によると、2015年との対比で2016年の自社売上は30%減少したという。日本でのIHの普及率は現在、わずか10%程度にとどまっているが、日本での普及率増の目的と同時に、マーケティング戦略として今後はOEMの生産販売の拡大、事業を東南アジア市場にもシフトしていく、としている。「世界的に有名な同業展示会は、多数の東南アジア企業からの視察、来展があるため出展の目的もここにある」と(羅社長)とし、また「日本の技術や設備は世界での認知度が高く、日本シェアNo. 1になれば世界に通用し、自分の製品に誇りを持って販売できるため、今後も同業展示会に参加し、自社製品をアピールしていきたい」とした。なお、同社の初出展当時は、日本ブランドを売り出したい企業が多数を占めていた事により、代理店となつてくれる

SEF Tech 羅社長(左)・楊営業マネージャー企業はいなかったが、現在では「中部コーポレーション」や「北沢産業株式会社」等の大手の代理店を構え、さらにOEM生産も行っている。

### 炭酸水製造メーカー、日本市場開拓

一方、「MOSA INDUSTRIAL CORPORATION」は家庭用炭酸水製造機のメーカーで今回は2回目の出展。目的は代理店探しだ。同社陳鴻銀本部長によると、自社製品は欧州欧米で60~70%のシェアを誇るのに対し、日本には未だ代理店がない。現在、日本家庭での普及率はまだ低いが、先進国のため、今後マーケット拡大として需要が見込めると見ている。日本では現在、家庭でお酒を割るのに炭酸水を利用する頻度が高く、さらにCO2等の炭酸水スキングケア商品に注目が集まっている事を理由に、炭酸水製造器の日本市場は今後拡大していくと推察している。なお、同社のカートリッジはすでに日本アマゾンで購入が可能だ。



MOSA 炭酸水製造機紹介

HCJとは、「国際ホテル・レストラン・ショー(Hoteres japan)」、「フード・ケータリングショー(Caterer japan)」、「厨房設備機器展(Japan food service equipment show)」の3つの合同展示会であり、毎年2月に開催されている。

# 柳川市の観光大使に郭獻尹氏



郭獻尹氏(左)と金子健次市長(右)

「やさしい日本語で外国からの観光客を迎えよう」とのプロジェクトを進めている福岡県の柳川市(金子健次市長)は2月13日、台湾の東呉大学で日本語を教える郭獻尹氏を招き、同市の観光大使に委嘱した。

日本へ訪れるインバウンド客は、昨年一年間に2400万人を超えた。初めての観光では団体で来日して東京、京都、富士山など、ゴールデンルートといわれる観光地を周遊する観光客も、次の観光の機会では、家族連れやグループで地方の町を訪れる傾向にある。しかし現状で、外国語を用いた「おもてなし環境」が出来る地方の観光地は多くない。日本語を学習する外国人の増加傾向に伴い、日本人と日本語で会話したがる外国人も数多く存在する。観光客が複数回日本を訪れている事からも、特にアジア圏での日本語学習者が顕著で、「やさしい日本語」ツアー研究会(座長:荒川洋平東京外国語大学教授)では、外国人をやさしい日本語でおもてなしする事を提唱している。

この傾向にいち早く注目したのが柳川市。平成28年度に交付された内閣府地方創生加速化交付金1500万円を、地元の観光リーダーの育成研修、市長を先頭としたプロモーション、台湾での日本語普及状況の調査、外国人モニターの招待そしてパッチの作成など、やさしい日本語で外国人観光客をおもてなしするための様々な活動を展開している。郭氏はこのほど委嘱した観光大使の任命もこの活動の一環で、台湾の大学で日本語を教え、Facebookで日本語勉強会を主宰して5万人の会員を擁する郭氏の持つ情報発信を活用し、柳川市は台湾

人観光客へのおもてなしを目標。同時に郭観光大使による日本語での市民との直接対話などで交流促進に向けた助言などにも期待する。

2015年に柳川市を訪れた外国人観光客は約15万人。このうち8万1千人が台湾からの観光客でトップを占める。日本語普及状況調査への協力や日本語指導など、郭氏のこれまでの実績が観光大使に委嘱した要因でもある。

一方、外国人観光客の増加に伴い、不慣れな外国語で話しかけようとするとうとうも尻込みしてしまうのが日本人の傾向。そこへ「日本語でいいです。しかも出来るだけシンプルで分かりやすい日本語で」と呼びかけているこのプロジェクトでは、市民の気持ちをグッと楽にさせている、という。やさしい日本語プロジェクトの狙いは着実に浸透し始めているようだ。「既に柳川市では50人以上の人がやさしい日本語でおもてなしをする事に手を挙げており、準備が整いつつある」とやさしい日本語ツーリズム研究会事務局長(株式会社電通)の吉開 章氏は説明する。

委嘱状交付で金子健次市長は「外国人観光客を現在の15万人から20万人に増やしたい。郭獻尹大使の情報発信力で台湾からのお客様がさらに増えれば有り難い」と意欲を示した。これに対し郭氏は「観光大使の委嘱を受けて大変名誉に思っている。台湾に戻ったら柳川の美しさ、素晴らしさを伝えるなど、柳川と台湾の懸け橋になりたい」と挨拶し、台中市に「柳川」という地域がある事にちなみ「台中市と柳川市が姉妹都市になるのも良いですね」というアイデアも飛び出した。



外国人観光客に左のパッチをつけてもらい、右のパッチを付けた人が「やさしい日本語」でおもてなしする

# 台北律師公會と第二東京弁護士会交流会議が開催



両会記念撮影

今年で6回目となる台北律師公會と第二東京弁護士会の交流会議及び晩餐会が2月20日、都内で開催された。台北律師公會からは黄旭田常務理事、薛欽峰常務理事、范瑞華常務理事らが出席、第二東京弁護士会からは早稲田祐美子会長、三宅弘前会長、加城千波副会長らが出席した。台北律師公會の張菊芳理事長は臨時会議のため、晩餐会からの参加となった。

交流会議では、「法学教育」をテーマに、両会の各代表者が発表を行った。台北律師公會黄常務理事は、「台湾における法学教育の過去、現在そして未来」をテーマに、最近20~30年の法学教育量の拡充と質の変化、学士入学制度の推進と中断、弁護士試験と法学教育との相互の影響について発表した。第二東京弁護士会三宅前会長は、法学

教育の過去と未来について発表し、現行の法曹養成制度の問題点と課題を話した。なお、両会発表後は質疑応答も設けられ、同会議は両国の法学教育をより一層理解する機会となった。

黄常務理事は本紙のインタビューで、「国と国の違いはあるが同じ弁護士として相似している部分はたくさんある。このような交流会にてお互いに比較し合うのも参考の価値がある」と話した。

会議後は晩餐会も行われた。来賓として、弁護士資格を持ち、司法官試験にも合格している台北駐日経済文化代表処(以下:代表処)の謝長廷代表が出席した。挨拶では、「日本と台湾は密接な関係にあるが、それに伴い法律問題が生じている。このため、このような1つの弁護士会の交流としては両会の交流が頻繁に行って欲しい」と述べた。

同会は2009年6月に日台韓で行った「弁護士制度国際検討会」により両会の接触が始まり、2010年3月31日国際交流協定を締結。2011年12月に東京で第1回交流会を開催して以来今回で6回目の開催だった。

# 大阪大学外国語学部×箕面市 ~台湾の文化を伝える交流会~



大学生5人が台湾の風土や文化について発表

大阪大学言語文化研究科、大阪大学外国語学部、箕面市の三者が共同で主催する公開プレゼンテーション「台湾の文化を知ろう!~阪大生が見た“生きた”学びが2月11日、大阪府箕面市のコミュニティーセンター彩都の丘会館で開催された。同会では大阪大学外国語学部で中国語を専攻する大学生5人が台湾の風土や文化について発表し、同大学の台湾人留学生をはじめ、当日

参加した一般市民との交流を深めた。

大阪大学外国語学部では2015年10月より台湾研究講座(台湾言語文化課程発展プロジェクト)の運営が始まり、台湾語など台湾に関する授業が多数開講されるようになり、近年では中国語習得のため台湾へ留学する者も増えている。同プロジェクトは台湾出身の林初梅・大阪大学准教授が研究代表者となって運営されており、今回、公開プレゼンテーションで報告をした5人の大学生はいずれも林准教授の学生たちである。その内の2人は4年生のときに台湾へ留学した経験を持ち、今回の公開プレゼンテーションでは、それぞれ「台湾人の自画像を探る」や「台湾原住民族の創世神話と絵本」というテーマを取り上げ、来場者の関心を寄せた。残る3人は、共同発表という形式を取り「日本のポップカルチャーと台湾」と

いう題で報告し、アニメ・音楽などの面から日台両国のつながりを解説した。

同公開プレゼンテーションは二部構成で、第一部はプレゼンテーション及び質疑応答、第二部は懇談会であった。質疑応答の時間では来場者から、学生たちの報告から湧いた台湾への素朴な疑問や、専門的な内容まで多岐にわたる質問が次々と飛び交い、学生たちのみならず同大学の教員を巻き込んだディスカッションとなった。続く懇談会では、学生たちの報告タイトル毎に仕切られたテーブルでグループ討論が行われ、来場者からの熱心な質問に報告した学生と台湾人留学生が受け答えしていた。

今回、プレゼンテーションを行った浦野晴菜さんは「台湾の原住民の魅力を余さず伝えられるようにプレゼンテーションを工夫した事で市民の皆さんに興味を持っていただく事ができ、非常に満足いく講座となりました。これからもまた機会があれば参加したいと思えます」と話していた。

# 謝代表、小学生に台湾往復チケット贈呈

台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表は2月15日、毎日新聞本社で行われた「こども新聞2016ふゆ号読者プレゼント贈呈式」に出席し、台湾ペア往復券及び宿泊券に当選した小学生とその母親の3組に賞品をプレゼントした。

同式は、毎日新聞社の「こども新聞2016ふゆ号」の紙面上で開催した「台湾のものしりクイズ」で当選した小学生にプレゼントを贈呈するもの。今回約3800人の応募の中から福村太郎くん、深澤里菜さん、鈴木祈莉さんの3人が選ばれた。

贈呈品は台北駐日経済文化代表処の協力によるもので、読者プレゼントでこのような豪華なプレゼントは初めてとみられる。謝代表は、会場で1組ずつプレゼントを贈呈し、当選した小学生を祝した。なお、挨拶で謝代表は「今回、このように皆さんのような若い



謝代表(右)と当選者ら記念撮影

世代に台湾を知って頂き、台湾の人たちと交流する中で、台湾をさらに理解してほしい」とコメント。さらにサプライズプレゼントとして謝代表は、小籠包の食事券を贈呈し、「現物は用意できなかったの

で今日は東京にある一番美味しい小籠包の食事券を持ってきた。台湾に行く前に東京で台湾を味わって、台湾に行ったら現地の味を楽しんでほしい」と述べた。「こども新聞」は2009年の創刊以来、年に3回発行され、今回初めて海外旅行プレゼントを実施した。毎日新聞社東京本社の武

# 台湾の新東陽がハタ料理披露で特別賞

高速道路会社のNEXCO中日本が主催する「第9回メニューコンテスト本選会」が2月19日、服部栄養専門学校で開催され、台湾関西サービスエリア(以下:SA)の運営会社、「新東陽」が特別参加した。毎年開催されている同大会に台湾のSAが参加したのは初めてである。

同大会のテーマは「地域の食材を使った『自分へのご褒美になるプチ贅沢な逸品』」で、新東陽は高級魚であるハタの一種、タマキを使った「客家料理」を披露し、台湾の食文化を日本に伝える事に努めた功績として「食文化特別賞」が受賞された。

同大会には、客家料理の実演、試食会も同時進行され、ハタ料理に加えて、客家料理では一般的な食材「芥菜(カラシナ)」を使用した料理や豚足料理の定食、手作りのパイナップルケーキが試食として提供された。この定食は、同大会の参加に際して新東陽の揚勝閣料理長らが特別に研究し、考案した定食メニューだという。今後はSAでも同じメニューを販売していきたいと語った。

また、今回ハタを使用した客家料理に関連し、服部栄養専門学校協力の下、ハタを使用した和洋中、さらには鍋物も客家料理と一緒に披露されるなど、他国の食を味わい、異文化交流にも繋がった。

同大会に来賓として台北駐日経済文化代表処経済部の王清要副参事官らが参加。王副参事官は挨拶で、「ハタと台湾料理の融合を皆に楽しんで欲しい。また、最近では農林水産業における日台関係が緊密であり、台湾の水産業者が日本で販売や開拓を通じて、日台



審査の様子

の貿易と友好関係に貢献する事を願う」と述べた。

一方、台湾の水産業者らも、日本でのプロモーション活動のために結成した「台湾訪問団」が会場に足を運び、日本のSA料理を視察した。

なお、同大会は、中日本にあるSAのレストラン35店舗が予選に参加し、試食審査を勝ち抜いた11店舗のみが決勝進出する。味、品質、価格、独自性、こだわりを基準に5人の審査員によってグランプリを決める催し。今年は昨年に続きホテルニューオータニ高岡の北陸自動車道有磯海SA(下り線)がグランプリを連覇した。

簡単で効率のよい経理を支援します

**大塚会計事務所**

起業された方や、J-SaaS(サーズ)やパソコンで会計を始めるとい方へ、毎日の経理処理や経理作業を簡単に効率よく進められるやり方をご支援いたします。

お気軽にご相談下さい

〒171-0022 東京都豊島区南池袋2-12-1 佐伯池袋ビル306

TEL: 03-3985-5730 FAX: 03-3985-5731

★山手線新大久保駅2分 ★総武線大久保駅1分

**嘉南旅行社**

東京都知事登録旅行業第3-4417号(社) 全国旅行業協会正会員

台北 ¥27,000(税別)	北京 ¥30,000(税別)	上海 ¥35,000(税別)
大連 ¥32,000(税別)	韓国 ¥27,000(税別)	越南 ¥32,000(税別)
香港 ¥30,000(税別)	曼谷 ¥32,000(税別)	新加坡 ¥32,000(税別)

●代辦中國、東南亞諸國簽證 ●世界各地便宜機票、酒店及團體旅遊 ●來日團體的酒店、派車、導遊 ●電腦訂位、迅速、確實

精通國、臺、日語服務親切

※銀行匯款口座 三菱東京UFJ銀行練馬駅前支店(普) 3678888(名義) 嘉南観光(株)

營業時間: 週一~五 9:30~18:30 週六 9:30~13:00

TEL: 03-3366-3988 FAX: 03-3366-2989

地址: 〒169-0073新宿区百人町2-20-1 第二岡田屋ビル401

**大鑫産業株式会社**

広めよう未来につながるリサイクル社会

大鑫産業株式会社は、不用品や廃棄物のリサイクルを専門とする会社です。

非鉄スクラップ	自動車部品	OA機器	基板	CPU貴金属
---------	-------	------	----	--------

◎電子部品、パソコン関係などの在庫処分にお困りの方は、DAIKINにご相談ください。◎生基板、トナーカートリッジを買取、リサイクルいたします。

TEL. 0297-30-3308(代表) FAX. 0297-30-3309

本社: 〒306-0515茨城県坂東市沓掛464 http://daikin34.com/index.html

Information エンタメ/イベント/日台交流

枯嶺街少年殺人事件、25年ぶりに日本公開

エドワード・ヤン監督が1991年に発表した最高傑作映画「枯嶺街少年殺人事件」が3月11日より25年ぶりに日本公開される。3時間56分の長編版だ。本作品はBBCが1995年に選出した「21世紀に残したい映画100本」に台湾映画として唯一選出され、2015年には釜山映画祭が選出した「アジア映画ベスト100」の代7位に選出される等、映画史上に残る傑作として評価され、これまで世界中のクリエイターや多くの映画ファン達に熱狂的に支持されてきた。1960年代の台湾を舞台に、実際に起きた事件に着想を得た本作品は、少年少女の青春のきらめきと残酷さ、そして「時代のうねり」を鮮烈な映像と秀逸な脚本で映し出し、さらにはその背景の社会も透徹した視線で描き切った伝説の映画である。3月11日より角川シネマ有楽町、18日より全国順次ロードショー。



『枯嶺街(クーリンチェ)少年殺人事件』 ©1991Kailidoscope

問い合わせ→ビクター・エンド Tel:03-3462-0345

台湾人留学生によるフォトギャラリー開催



「東京サーカス TokyoCircus」張凱翔写真展

台湾人留学生張凱翔さんによる「東京」をテーマとした個展が3月6日から12日まで新宿区のPLACE Mギャラリーで開催される。個展に掲載する作品は、張さんが日本に2年間暮らしている現在、東京で撮影したスナップ写真と張さん自身が想像している物語の組み合わせから成っている。外国人の視点からどのように東京を観察しているかを覗く事ができ、日本と台湾の文化交流にも繋がるだろう。現在張さんは東京ビジュアルアーツ専門学校で写真の勉強をしており、同展示会は張さん自身の学校最後の集大成である。入場料無料、開館時間12:00~19:00。

問い合わせ→Mail:ken0205@gmail.com

台湾映画上映会「練習曲」上映×一青妙さん環島トーク

台湾映画同好会主催の台湾映画「練習曲」(2007年)の上映会と、一青妙さんのトークショーが3月24日、日比谷コンベンションホールで開催される。同映画は、聴覚障害のある青年が自転車によって台湾一周するロードムービー。日本での配給はすでに終了している作品のため、今回は特別に上映の許可を取っての大変貴重な上映となる。公開から10年が経った今、日本において台湾に関するキーワードの一つとして、台湾本島一周する「環島」が一般に浸透しつつあり、また、台湾では「自転車環島ブーム」が巻き起こったほどだ。「練習曲」で描かれる台湾の美しい風景を堪能した後は、一青妙さんを迎えて、昨年台湾で開催された環島イベント「FORMOSA900」(フォルモサ900)で台湾一周をした時の話を伺い、自転車による「環島」の魅力に迫る。参加費は1000円。事前申し込み制、定員200名、自由席。



台湾映画「練習曲」上映 ©奇異影視製作有限公司

問い合わせ→台湾映画同好会 Mail:tw.films.2015@gmail.com

寒雲さん、ライブ開催

台湾出身の歌手寒雲さんのスプリングディナーライブ〜春の宴〜が4月9日、石川県加賀市のホテルアローレ「瑞松」にて行われる。共演は夏輝レオンさん、ゆふきれいさん。なお、ヴァイオリンは石井泉さん、ギターは木村菜緒さん、鍵盤ハーモニカは天竺めぐみさんが担当する。ディナーが18:30〜、ライブは19:30〜。料金は¥12000で、宿泊付きが¥18000(ディナー・飲み放題付き/税込・入浴無料)となっている。当日は台湾の歌曲も披露予定だ。寒雲さんは1992年に日本でデビューして以来、日本各地でコンサートやディナーショーを開催している。「とても素敵なホテル・料理・温泉・そして華やかな舞台を是非楽しんで頂きたいと思います」(寒雲さん)。



寒雲さんのコンサート開催

問い合わせ→Tel:090-9764-0555(寒雲)

二日台の友情が生んだ「天心屋」

台湾料理が日本で注目を浴びている昨今、2月7日、台湾点心カフェ「天心屋」が都内大田区にオープンした。大森駅から少し離れた住宅街に位置するこじんまりとしたお店だ。都内にある一般的な台湾料理店舗の外観とは異なり、アットホームで台湾を匂わせる外観となっている。場所が住宅街という事も、近隣のファミリー層や主婦を主なターゲットにしているという。

店内の壁貼りやメニュー表作り、さらにはテーブル作り等、全てが手作りできているのもこのお店の特徴である。食材等も黄店長の家族に台湾から送ってもらう等、台湾テイストを演出するこだわりが。取材した日はオープン間もない1週間後だったが、テイクアウトする近所のお客が数人見られた。すでにリピーターもいるとの事。閉店時間は夜の8時だが、もっと長く営業してほしいとの声も多数あるという。



天心屋名物の水煎包

「天心屋」は、日本人の岩本哲人オーナーと台湾人の黄淑真店長が共同で開いたお店だ。日本人と台湾人が一緒にお店を開くという事は実に珍しい。2人が出会ったのは今から20年以上前の事。当時日本の旅行会社で勤務していた岩本オーナーと台湾の旅行会社で勤務していた黄店長は取引関係にあった。岩本オーナーは仕事上台湾に行く機会も多かった。一方黄店長は、日本に興味を持ち、20年前に日本に留学した後そのまま日本で就職した。その間も2人の友情は続き20年を経て、定年退職した岩本オーナーと生活に余裕ができた黄オーナーは、共に「日本で何か台湾と関係のある事ができないか」と考えた末、今回の天心屋オープンへと結びついた。

また、台湾料理以外にもお菓子作りが大好きな黄店長は、今後はお菓子のレポートも増やしていくとの事。今後はお客からのニーズにも応じながらメニューを増やす等、地域密着型のお店を目指し、「将来は2号店3号店を増やしていきたい」と意気込みを語った。

物件を決めた後、およそ7か月間の試行錯誤を経てお店が出来上がった。「大袈裟じゃなくて良い。小さなお店だけど、台湾料理をたくさんの人に食べてもらって、台湾を発信していきたい」(岩本オーナー)。

台湾ツアー「トム・リン監督作品ゆかりの地を巡る台湾4日間」実施中

台湾映画「百日告别」の公開を記念し、オーバーシーズ・トラベルは現在、ツアー「トム・リン監督作品ゆかりの地を巡る台湾4日間」を行っている。同ツアーは同作品「百日告别」に加え、同じくトム・リン監督の作品「九月に降る風」、「星空」のロケ地である高雄、新竹、桃園、台北などを周るとい台湾映画好きやトム・リン監督ファンにとってはたまらない3泊4日となっている。

「百日告别」にゆかりの場所としては、主人公のシンミンが一人で泊まった「高雄85スカイタワーホテル」に宿泊するほか、滞在した部屋から眺めた「愛河」の観光などが含まれる。なお、同ツアーの申込者には「百日告别」のオリジナルポストカード、台湾観光局提供の悠遊カード(NT\$50チャージ済)がプレゼントされる(数に限りあり)。申込み問い合わせは下記の連絡先まで。

問い合わせ↓ 株式会社オーバーシーズ・トラベル Mail:tokyo@vacation-ota.co.jp Tel:03-3567-2245 (営業時間 9:30~18:30・土日祝休)

Tour information including a map of Taiwan and a list of tour dates and prices.

http://www.kokubetsu.com/0120\_taiwan.pdf

Advertisement for Shintomi International Language School and Chiba-Taiwan Chamber of Commerce, featuring Japanese and English text about language learning and business support.

Advertisement for insurance services, highlighting a 100% guarantee and special provisions for nursing care, with a list of insurance companies and contact information.



# Digest News / February 2017

— 1ヶ月の出来事をダイジェストで振り返ります

## Feb.1 生活の質高い国、台湾第1位

海外在住者向けオンラインコミュニティ「InterNations」が発表した最新の「生活の質の高い場所」で台湾がトップになった。この結果は、2位の空気が水がキレイな「オーストラリア」、3位の交通面が充実し、医療水準が高い「日本」を破っての快挙である。この調査は174カ国の海外在住者1万4千人を対象に実施したもので、

調査中、99%の人が台湾に対して安全面で肯定的な見解を示したほか、91%の人が交通インフラについて満足と答えた。また台湾の医療制度について「品質が良く安価である事」が今回の1位へと繋がった。なお、調査方法は交通利便性、個人幸福度、安全面等に基づいて行われたもの。

## Feb.2 HTC 副総裁辞任へ

台湾大手スマートフォン会社HTCで、全球執行副総裁ジェイソン・マッケンジー氏が1月31日付で退社していた事がわかった。本人自身がツイッターで発表した。マッケンジー氏はHTCに入社以降米国事業を12年間携わり、1年前に副総裁に就任したばかりだった。今回の退社について、HTC創業者である王雪紅会長と周永明現社長に感謝を述べたほかは何も明らかにしていない。HTCではマッケンジーの退社

直前にも、VR用ヘッドマウントディスプレイ「HTC Vive」のデザインを担当していたクラウド・ゼルウィガー設計總監が、退職とアメリカ Google の Daydream VR チームに加わる事を自身のツイッターで表明。次々に人材が退社していくなか、HTCは未だ携帯生産を諦めておらず、今年も新しい製品に力を入れていく模様。

## Feb.4 エバー航空、新たなキャラクター導入

エバー航空は、今年の上半期をめどに、現在運航しているハローキティ特別塗装機のうち4機を順次引き上げると発表した。これに代わり、新しいサンリオキャラクターの塗装機4機が誕生する予定とした。同社によると、上半期に引き上げるのは「マジックスター」、「アップル」、「アラウンド・ザ・ワールド」、「スピードパフ」の4機。悲しむファンも少なくないといわれる。昨年11月に期間限定塗装機「ぐでたま」を運航したが、若者の心を掴んだものの、ハローキティほどの情熱はなかった。今後、どのキャラクターが誕生するのか業

界やファンの中で注目が集まる。



引き上げが決まった「マジックスター」

## Feb.6 公立動物病院収容所で殺処分廃止

行政院農業委員会は、公立動物収容所での殺処分を全面的に廃止したと発表した。殺処分はアジア地域ではインドに次いで2番目。公立動物収容所ではこれまで、収容後12日を過ぎても引き取り手が見つからなかった場合、殺処分を行ってきた。同委員会の統計によると、1年間の殺処分は最高で10万件を超えた事も

あるという。以前台湾で公開された「十二夜」という野良動物収容センターに関するドキュメンタリー映画が、社会的反響を呼びついに同廃止へと繋がった。近年は動物保護意識が高まり、この10年間で殺処分率が13.45%から74.86%に上昇し、殺処分率は74.57%から12.38%にまで下がった。

## Feb.9 十三行、兵庫県立考古博物館と姉妹締結

新北市立十三行博物館(以下:十三行)は兵庫県立考古博物館と姉妹提携及び学術文化交流協定を結んだ。台湾の考古と先住民の文化を世界に伝えていくためとしている。兵庫県立考古博物館は今年で10周年を迎え、これを機に今年7月、兵庫県立考古博物館で、台湾原住民とバイワ族の

文化を紹介する特別展を開催する予定である。新北市文化局によると、十三行は兵庫県立考古博物館が開催する「全国古代体験フェスティバル」に2012年より毎年参加しており、それ以来、密接な交流が行われていた。同締結で資源の分かち合いと交流をさらに進めていくという。

## Feb.12 雲林県ランタンフェスでトラブル続出

雲林県で開催している台湾ランタンフェスティバルで、ランタンが燃えるという事故が起った。競技部門で出品されていた龍のランタンが静電気を原因とする火災が発生、隣接していた別のランタンにも延焼したとの事。けが人や死者は出ていない模様。雲林県の丁彦哲副県長によると、現場にいた機動隊によって火は1分後に消し止められた。消火後は通常通りフェスティバルを行った。会場では9日もケーブルの接続ミスによって分電盤が燃える火事が起っている。また、同日夜には台座が破損するという事故も起った。どれもけが人は出ていないものの、今年のランタ

ンフェスティバルはトラブル続きに見舞われた。



台湾ランタン祭り(写真提供:中央社)

## Feb.13 観光バス横転、33人死亡

高速道路で観光客を乗せたバスが横転し、乗客ら33人死亡11人がけがをした。事故の原因は運転手の過労運転により、スピードの出し過ぎで曲がりきれずそのまま転落したとみられる。台湾メディアによる

と、バスには乗客44人が乗っており、多くは高齢者だったという。一行は、台中市日帰り花見ツアーの帰り道で、現場付近は急なカーブになっており、時速20キロオーバーで走行していたとの事。

## Feb.16 台湾焼酎協会設立

台湾で日本式の焼酎を産出するため「台湾焼酎協会」が大武山酒造社から9社によって立ち上げられ、台北市内で設立大会が開かれた。会長には呉仁春董事長が就任。呉董事長は自ら屏東市内にある埔郷の最大生産地のしょうゆを焼酎製造に乗り出した経験に基づき、「台湾の農産物は焼酎製造の際、

本土焼酎として原料となる」と話した。成立後は、消費拡大や製造技術の研修などを協力して行う予定。呉董事長は、現代の消費者は商品の健康等を意識するため、焼酎は低カロリー・低糖質のため太りにくく、二日酔いにもなりにくいと推奨している。

## Feb.17 「H5N6型」が流行

台湾全土で鳥インフルエンザ「H5N6型」が流行。このため、農業委員会はニトリ、アヒル、ガチョウ等の家禽類の移動と屠殺の禁止を発表。違反した場合10万円の罰金となる。実施は24日までの1週間。17日は朝から大量の家禽が屠殺場に運び込まれた。同禁止令によりウイルスを持った鳥の排除に成功。しかし、世界動物衛生組織 OIE の定義により、少なくとも3ヶ月ウイルス発見が出て初めて完全排除となるため、現在は経過を見守る。「H5N6型」は2月初旬より流行。高病原性鳥インフルエンザウイルスで、鳥に対して毒

性は強いが、人への感染可能性は低い。東部の花蓮県で台湾初感染が確認され、宜蘭県、雲林県、嘉義県、台南市にまで被害が広がったという。



農業委員会会見(写真提供:中央社)

## Feb.17 鴻海精密工業自動運転車事業強化

鴻海精密工業が高解像度の3Dフラッシュレーザー開発を手がける米企業「TetraVue」が1000万ドル資金調達の出資に参加したと台湾メディアが伝えた。TetraVueが開発した超超画質を造り出すソリッドステートフラッシュレーザー技術が自動運転車に応用するとされている。鴻

海は出資を通じて自動運転車事業を強める方針。鴻海のほか、自動車部品・機械大手のボッシュのグループ会社、ロバート・ボッシュ・ベンチャー・キャピタルや韓国・サムスン電子傘下のサムスン・カリスト・ファンドなども出資したという。

## Feb.22 スタバ6年ぶりの値上げ

6年もの間値上げを試みなかったコーヒーチェーンスターバックスがついに値上げを開始した。29品を対象に5元~20元の値上げとなっており、社会的波紋を呼んでいる。ショートサイズラテは、95元から110元と16%増。運営元の統一星巴克は値上げについて、材料価格の高騰や

人件費等の運営コスト考慮した上での調整と説明。台湾メディアによると、世論では「値上がりしても買う人は買う」や「高すぎると、しばらく飲まないようにしましょう」との二手の意見に分かれているという。全店では最初の4日間、無料でサイズ変更サービスを行った。

## Feb.23 新竹県と宮崎県が交流協定

新竹県は宮崎県と「友好都市交流協定」を締結し、邱鏡淳県長が宮崎県庁を訪れ、宮崎県の河野俊嗣知事と協定書に調印した。同締結により、文化、観光、産業、教育、スポーツ、農業等の面で交流を行うほか、経済文化等の団体が双方往来するなど、さらなる交流に力を入れて行く方針。邱県長は河野知事に「有恩真好(あなたがいってくれて良かった)」と文字入りの額を贈った。宮崎県は6年連続で少年野球チームを新竹に派遣するほか、宮崎県議会星原透県議会議長が日台友好議員連盟会長として訪問を率いて国際交流を行うなど、これまで両県の交流は行われていた。邱県長は今年8月に新竹市で行われるユニバー

シアード台北大会開催に際し、宮崎市のKIRISHIMA サンマリスタジアム宮崎やKIRISHIMA 木の花ドームを視察した。



新竹市と宮崎県調印式(写真提供:中央社)

## Feb.24 日本ラーメン祭り、台湾上陸

日本各地のラーメンが楽しめる「2017日本ラーメン祭り」が台北市内駐車場で3月5日まで10日間開催された。「一風堂」、「豚骨ラーメンGYOKU(玉)」、「博多新風」等の10店が参加し、スープは日本から空輸して日本本場のラーメンテイストを提供。どの店も毎日1000杯と数量限定。前売り券15000枚は即完売

と絶大な人気。同祭りを企画した李彦甫理事長は、「4、5年の努力を経て遂に日本のラーメン祭りを台湾に持ってくる事ができた」とし、東京、北海道、福岡、神奈川の必須ラーメン店を揃えているため、台湾客には各地の味を楽しんで欲しいと語った。

## Feb.26 二二八関連機密文書、全て公開へ

今年で70周年を迎える二二八事件、国家発展委員会檔案管理局(以下:檔案局)が収蔵している二二八事件に関する資料を全て公開した事を明らかにした。3月1日からは内容分析や索引機能、デジタル化を開始予定。今回公開された檔案局収蔵の機密文書は46177件あり、公文書約137万ページ分である。また、中華民国僑務委員会から今年1月に移管された台湾

独立党や台湾独立派による華僑現状の資料は、従来2020年12月まで非公開とされていたが、2月24日に繰り上げて公開。なお、同局によると、このほか別の83機関が99万ページの政治文書が2016年に同局への移管が決まっており、6月末には移管完了を目指している。(2月27日現在)

## Feb.26 旧東西送電ルート、廃止

かつては台湾経済を支え、「生命線」と呼ばれてきた旧東西ルート(南投県万代—花蓮縣銅門)の廃止が決まった。同路線は1951年から53年にかけて、中央山脈を初めて越え、台湾の東西を結ぶ台湾電力(以下:台電)の送電ルートとして完成。全長は46キロで6万9000ボルトの送電能力を持つ、史上最も賛嘆された言われる路線だった。98年には34万5000ボルトの電力を届ける南投東大線と花蓮東鳳林を結ぶ新東西ルートが完成したが、その後も引き続き運用されていた。台電供電の蕭勝任社長によると、旧東西ルートは2015年に台風災害の影響を受け土砂崩れが発生し被災。16年には3つの台風が相次いで襲撃した事により地形が変形、復

旧は困難としたため同ルートの廃止が決まった。廃止後は、南投県側の一部は送電設備としての機能が残されるほか、花蓮側でも歴史的価値があるとして一部保存されるとしている。



生命線と言われた旧東西ルート(写真提供:中央社)

# ★ ITI横浜研修生に密着!

ITIの日本語コースに所属する学生は、学習の集大成として日本の東京・横浜・福岡地区で約3週間研修を行っています。今回は横浜地区で研修を行った李柔儀さんの1日に密着しました!



李さんの研修受け入れ先は横浜の仏蘭西料亭 横濱元町霧笛楼を運営している株式会社鈴音。李さんの第一希望の受け入れ先です。



午後6時、研修生が集合し、研修先へ出発。料理長が丁寧に指導。李さんはキャベツのカットなどを任せられました。別日には、カフェでの接客やお菓子作り、また、工場での作業など、株式会社鈴音のお仕事場を一通り経験しました。



この日は研修1日目。李さんは緑化フェアに向けた新商品の開発会議に参加しました。食料品のマーケティングに興味を持つ李さんは真剣な表情で会議に挑みました。「日本の企業の会議に初めて参加したので緊張しました。台湾と違って、会議の流れがスムーズで勉強になりました。」(李さん)。

横浜地区の ITI 研修生が集まり自らの研修結果を発表。李さんも流暢な日本語で研修の成果を伝えました。



株式会社鈴音

## ITIとは?

ITI(台湾貿易センター・国際企業人材育成センター)は、2年間で外国語と経営などを学ぶ人材育成機関。入学時には日本語を一から学ぶが、1年半学んだ来日時には日常会話が可能で、卒業時には日本語能力試験のN1に合格する人が約7割。N2に関しては、100パーセントの確率で合格するという。英語もTOEIC901点(平均)の実力に加え、会計学、国際マーケティング、国際商法なども履修しており、卒業後は台湾のハイテク企業等に就職するという実力を持つ。

「3週間に及ぶ研修の経験はとても素晴らしいものでした。将来の自分の為になったと思います。また、自分はやはり食品のマーケティングがやりたいと再認識させられました。日本でも、台湾でも活躍していきたいです!」(李さん)



## 仏蘭西料亭 横濱元町霧笛楼

横浜が作り上げてきた文化—西洋と日本のおもてなしの精神をブレンドした「和魂洋才」をメインコンセプトとし、1981年、横濱元町に開店。大佛次郎の小説「霧笛」の舞台となった元町百段坂のふもとに立地することから、店名を「霧笛楼(むぎすろう)」と命名された。外観は、仏蘭西料亭の名にふさわしい洋館の佇まい、開港後に賑わった港崎町遊郭の料亭「岩亀楼(がんきろう)」をイメージし、内装や調度品・器に至るまで、異国情緒あふれる古き良き横浜の世界観を再現するべく、こだわりの空間創りを追及している。



鈴木めく 社長室長 李柔儀さん 鈴木信晴 代表取締役

# 台湾チョコレート専門店が日本初出展

台北にあるフランス菓子店「Le Ruban Chocolat」が、2月1日から5日まで東京国際フォーラムで開催中の「SALON DU CHOCOLATE 2017」に出展した。同イベントは

販売した台湾テイストのチョコレート今年で15回目、台湾ブランド出店は今回が初めてである。今回の出展に当たり、Le Ruban Chocolatの李依錫シェフは、「チョコレートに対する概念や考えが異なる世界各国のシェフが集まる事で、台湾と世界のチョコレートの交流を深められたら嬉しい」とコメント。

出店品目には6種類の個性豊かなチョコレートを準備した。なるべく台湾に根ざしテイストのチョコレートを皆に味わってほしいという李シェフの概念の下、台湾産のパラ、ライチ、ラズベリーが混ざったテイストのチョコレートや、ウーロン茶、生姜、醤油、白胡椒、さらには生のパクチーをテイストにしたチョコレートも販売。

李シェフは、元々20年間ケーキのパーティエの経験を持ち、10年前よりチョコレート作りを開始。現在台北にある2店舗では、「フランス菓子に台湾の素材をうまく融合させているチョコレートが特徴」と地元でも有名で、台湾現地駐在の日本人の客も多い。

なお、台湾では、リュウガン(龍眼)、ローズ、白胡椒味が人気である。

# Mayday 再び武道館 ライブで2万人熱狂



Mayday ライブ2万人熱狂

台湾の金曲獎(グラミー賞)で最優秀バンドを4度獲得するなど、アジア圏で絶大な人気を誇る台湾の5人組ロックバンド・Mayday(五月天)が2月3日、4日の2日間に渡り、日本武道館で単独ライブを開催した。武道館での公演は、2015年8月以来今回で2回目の開催となった。同ライブのタイトルは「Re:DNA ~2017 復刻版~」で、台湾で2009年に開催した「DNA」のライブ内容を少しアレンジを加えながら再現したものだった。

台湾語で歌う「モーター・ロック / 軋車」から始まり、1部の曲の内容は異なったものの、両日ともにダブルアンコールを含め27曲を熱唱し、2日間で約2万人のファンを魅了した。日本語の曲も数曲披露され、なかでも今年2月1日、日本限定盤として発売したアルバム「自伝 History of Tomorrow」に収録された「Buzzin'」及び「Song for you feat. Akihito Okano (PORNOGRAFFITTI)」は同ライブで初披露となった。なお、「Song for you」の日本語版歌詞は、日本のロックバンド・ポルノグラフィティの岡野昭仁が担当したが、2日目の公演には岡野本人がステージにサプライズで登場。「Song for you」を熱唱し、Mayday ボーカルの阿信と奇跡のコラボレーションを実現した。披露後岡野は、「めっちゃ良い曲じゃん!」と絶賛し、「台湾で会おう!」と再会の約束をしてステージを去っていった。

また、曲中のバックスクリーンには中国語の歌は日本語字幕、日本語に吹き替えられた歌はその日本語の意味の中国語字幕をつける等、どの国のファンが見ても意味がわかるように工夫がされていた。なお、MC中は前回同様、大きなバックスクリーンにメンバーの会話を

同時翻訳が写し出されていた。

初日のMCで阿信は、「明日のライブまでに僕たち Mayday を見つけられたらご飯を奢ってあげる」と大胆発言し、ファンの期待を膨らませた。2日目のMCでは、「実は昨日、あるファンに見つかってしまい、かつ丼を奢った。しかも一番高いやつ」と話し、会場のファンを熱狂させる等、MC中のトークでも日本のファンとの交流を図った。

さらに会場一体となってファンが熱唱したりジャンプをしたりする場面もあり、2日目の武道館ライブは両日共に大成功だった。

ライブを観たファンは、「前回も来たけど、今回もすごく良かった。ファンになって5年以上。彼らの日本語が本当に上手だから、日本語の曲もぐっと心にくる」(日本人40代女性)。「フィリピンから来ました。フィリピンでは Mayday のコンサートをやらないので、コンサートのためにこうして海外に来るの」(フィリピン人20代カップル)と、日本人、台湾人だけではなく各国から Mayday を観るために日本に足を運んだファンも多く、今後も日本でのコンサート開催に期待が膨らむ。



岡野昭仁がサプライズゲストとして登場

## 福原愛結婚披露宴、ミッキーミニーも祝福



ケーキカットの様子

リオ五輪代表で卓球女子団体銅メダリストの福原愛選手と、台湾卓球の江宏傑選手が2月5日、東京ディズニーリゾート内のディズニーアンバサダーホテルにて結婚披露宴を行った。二人は今年の元旦に、江選手故郷

の台北で既に披露宴を行っているが、今回は日本での結婚披露宴となった。

福原選手は白いウェディングドレスを身に着け、江選手と手を繋ぎながらバージンロードを歩いた。式の途中では、眠れる森の美女の城をイメージデザインしたウェディングケーキを、ミッキーミニーと4人で一緒にケーキ入刀したり、結婚誓約書に新郎新婦共に署名し、記念写真を行った。

二人はミッキーとミニーにも祝福され、幸せいっぱいの様子だった。

披露宴後、二人は連名で「本日、無事に日本での結婚披露宴を執り行うことができ、大変うれしく思っております。ありがとうございました」とのコメントを発表した。

なお、福原選手は現在結婚生活を優先するため、競技からは離れ、復帰時期についてはまだ未定。

江選手はディズニーが大好きで、曾て二人はデートでディズニーを訪れた事もあり、更に江選手は福原選手にミニーのネックレスをプレゼントした事もあった。

## 故・張義雄画伯追悼展 made in koganecho 同時開催



台湾美術界の在野の旗手である故・張義雄氏の画伯追悼展と、横浜市黄金町を拠点とする黄金町エリアマネジメントセンターが開催する展示会「made in koganecho」が2月18日、虎ノ門の台湾文化センターで同時に幕を開けた。「張義雄画伯追悼展」は3月13日まで開催されており、「made in koganecho」は2月18日と19日の二日間の開催だった。

初日の18日には両展のオープニングレセプションが開催され、台北駐日経済文化代表処の郭仲熙副代表は、「張さんの時代から芸術を通じての密接な日台交流が行われており、時空を超えた今、黄金町では日台芸術交流が盛んである。このように芸術を通じた日台交流が次の世代に引き継がれるのは非常に喜ばしい事」と述べた。

「張義雄画伯追悼展」は昨年5月、102歳で亡くなった故・張義雄氏の作品展示会であり、会場には遺作の中から、油彩33

点、水彩・素画12点が展示されている。張さんの長女である鈴木静さんが「多くの人に父の作品を見てほしい、この展示を機に日台交流が深まってほしい」との思いから同展へと繋がった。

「作品1点1点が父を物語る人生であり、父そのものである」(鈴木静さん)。

故・張義雄氏の遺作 故人は生前、日本の関西美術学院に通い、後に「日本美術家連盟」の会員になる等、日本とゆかりがあった。作品は独特であり、同展企画者である台湾協会の森美根子理事は、「遺作を見る時、その画面に漂う深い哀愁は、人間の愚かさや哀しさと素晴らしさその総てを見つめ続けた張義雄だからこそ表現し得たものといえる」と語った。

また故人は日本だけではなく、台湾に欧州文化を広めたいという気持ちから、長年パリに移り住み、アトリエも構えた。ピエロの絵が多いのはそのためだという。さらには会場には、故人が後の9月21日に蔡英文総統より追贈された褒揚令も展示されている。

### 時代を超えた日台交流プログラム

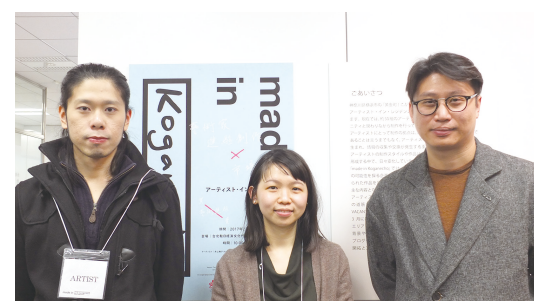
「made in koganecho」は、黄金町エリアマネジメントセンターのアーティストインレジデンスプログラムに参加している日本人ア

ーティストと台湾人アーティストの共同展示会である。アーティストインレジデンスとは、黄金町エリアで地域コミュニティとして制作、発表を行っているもの。

今回参加した台湾人アーティストは、陶藝さん、陳亭君さん、丁昶文さんの3人で、3人ともに昨年4月より一年間のプログラムに参加し、そのなかで同展示会にも出展した。

また、アーティストインレジデンスは台湾との関係が深く、一年間プログラムとは別に、互いのアーティスト一人を1年間に一度交換し、その地で三か月間制作、発表をする「交換プログラム」も実施しており、今年で4回目だという。黄金町エリアマネジメントセンターの山野真悟事務局長は、「今後は台湾で今回のような共同提示会を開きたい」との意気込みも語っている。

なお、隣接された故人の作品展示を見て刺激になったという参加アーティストの陳さんは、「今と違って張さんのあの時代の背景は厳しく、作品を作るという事は決して簡単な事ではなかったはず。同じ芸術家として本当に尊敬する」と話した。



台湾人アーティスト、左から陶藝さん、陳さん、丁さん

## 『レオ』・『ライナ』が台湾担当部長に任命!



台湾担当部長に任命!左から、ライナ、日本プロ野球チーム「埼玉西武ライオンズ」のマスコットキャラクターである「レオ」と「ライナ」がこのほど、特命観光大使(台湾担当部長)に任命された。これに伴い2月1日、埼玉県知事室で任命式が行われ、埼玉県の上田清司知事よりレオとライナに任命書が交付された。

台湾担当部長に任命されたレオは、「台湾

のライオンズファンからはいつもエナジーを頂いています。台湾担当部長として、台湾からのお客さんに埼玉へ足を運んで頂けるよう、アクロバットやパフォーマンスの特技を生かしてPRしていきたいと思えます」とコメント。またライナは、「台湾担当部長として、台湾の皆さんとふれあいながら、女の子目線で埼玉の観光地を元気いっぱいPRしていきたい」と

上田知事、レオ 思います。ライナの誕生日の5月初旬は秩父の芝桜がおススメ!と早速埼玉県観光地をPRした。

なお、西武ライオンズと台湾プロ野球チーム「統一ライオンズ」は交友関係にあり、昨年夏には互いの地での友好記念試合の実施や、統一ライオンズ選手が西武ライオンズのキャンプに参加するなど、野球を通じた日台関係を促進している。さらにレオとライナは台

湾現地でも人気があり、今回の台湾担当部長任命でさらなる友好関係を築いていく事に期待が深まる。

なお現在埼玉県では、2020年までに外国人観光客を年間100万人誘致する事を目標にしており、特に台湾に向けては、今年度より埼玉県国際観光コンシェルジュを設置し、台湾現地の観光情報の発信、教育旅行の誘致活動、現地旅行者へのツアー企画、販売の働き掛けを行っている。



真剣に打ち合わせをするレオとライナ

## まるで台湾! 大阪中華学校で春節祭開催

台湾の旧正月を祝して行われる毎年の恒例行事「台湾春節祭」が2月5日、大阪中華学校で行われた。主催は中華民国留日大阪中華総会。同イベントは今年で17回目。会場には生憎の雨にも関わらず、台湾の雰囲気や美食を求めて多くの来場者で賑わった。

大阪中華学校の校庭で行われている同イベントでは、門を書くように在日台湾華僑団体や台湾料理店の露店が並んでおり、牛肉麵、魯肉飯、蔥油餅、香腸、皮蛋、茶葉蛋、肉粽、豆花など台湾に行かなければ食べられないような料理が販売された。来場者も、「毎年台湾グルメが食べられる事をとても楽しみに来ています」、「台湾で食べたような本場の味の台湾料理が頂けるので、まるで

台湾に来たみたいで嬉しい」など、大満足の様子が伺えた。

また、舞台上では台湾からやってきた伝統雑技の団体パフォーマンスの他、獅子舞の練り歩き、二胡演奏、民族舞踊披露などが行われ、来場者は台湾文化への理解も深めた。

### 紹興酒で鏡開き!

当日行われた開会式には、この日のために台湾から来日していた台湾僑務委員会の呉新興委員長ほか、主催者である中華民国留日大阪中華総会の洪里勝会長を始め、台北駐大阪経済文化代表処の陳訓義処長、台北駐日経済文化代表処(以下:代表処)の張仁久副代表、同じく代表処僑務部の王東生部長、日本中華連合総会の毛友次会長、大阪市浪速区の玉置堅司区長など来賓が多数出席し、紹興酒で鏡開きを行い、春節を祝った。なお、鏡開きで使用された紹興酒は、振る舞い酒として無料で配られた。

開会式に登壇し挨拶した洪里会長は、「同イベントは今年で17回目、今では



獅子舞に紅包を渡す呉委員長

大阪中華学校卒業生の同窓会にもなっている。大阪に在住する華僑も多く来場して頂いているし、浪速区地域の皆様方にも沢山来て頂いた。是非楽しんで頂きたい」とし、来場者を歓迎した。

また、今年初めて同イベントに参加した呉委員長は、「このようなイベントは台湾の華人における新年の雰囲気や日本の社会にお伝えする良い機会だと思う。国と国の文化交流は意義がある。また、佛光山などのブースも設けられていたが、このような台湾の宗教文化を伝える事もとても大切であると感じた」と述べた。

呉委員長は開会式後、1つ1つ各ブースに挨拶に廻ったほか、獅子舞のパフォーマンスの際は、獅子舞に紅包(赤い封筒に入ったお年玉の意)を渡すなど、大阪地区の華僑を激励した。



伝統雑技の演目では福を撒く意味を込め鈴を配った

# 台湾人百人百色 南方澳の語り部～蘇澳の廖大慶さん

第二十七回

文：林雅行(映画監督)



蘇澳の廖大慶さん

台湾3大漁港とは、基隆、高雄、蘇澳と言われている。基隆は戦前から日本との航路であり有名。南の高雄も台北に並ぶ都市として知られているが、東部の蘇澳については日本人は知る人が少ない。現在、蘇澳には3つの港がある。北方澳は戦前の日本統治時代前は海賊の拠点だったが今は台湾海軍の基地になっている。蘇澳港は戦後埋め立てられ貿易・商業港になった。南方澳は古くからの漁港で日本人漁師が移住し台湾人に漁法を教えた。今では港には漁船がぎっしり。鮪や鯨の水揚げが多いという。港の前にある廟は賑わい、土産物店が立ち並ぶ。南方澳は別名「鮪魚之郷」と言われ、名産の鮪の缶詰が山積みもある。土産物店の一角に、骨董品屋があり、中に入ると、壁には一見落書きのように文字が書かれている。石の階段を上ると2階は南方澳の歴史を綴る写真が展示されている資料室になっている。ここを主宰するのは、1953年3月生まれの廖大慶さんだ。南方澳出身で文化歴史研究者の肩書きを持つ廖さんは郷土史家でもある。廖

さんの父、心賀さんは戦前、海軍横須賀基地に勤め、台湾に戻った後、南方澳で船やエンジンの修理を始めた。多忙を極め、職人たちが集まって来た。1962年に工場を作り、三剛鉄工廠と名付けた。「三剛」とは3人の「強い人」を表す。「よく働いていた。職人たちは、昼間は家族を養うために働き、夜(残業)は工場の発展のために働いた」と廖さんはいう。母は経理の仕事を手伝っていた。その頃の漁では、小さな漁船が活躍し、工場もフル稼働。しかし1970年代になると大型船が登場し、仕事量は徐々に減ってくる。働きづめだった父は、工場を作ってから10年後に亡くなった。廖さんが高校生の時だった。母は職人たちと工場を続けた。廖さんは兵役では通信士の任務につき、除隊後、シャゼリアの製造をする。1988年、35歳の時に通信器機の販売を始めた。母の工場の仕事は減り続け、2004年に閉鎖になった。船を修理し続けていた父や職人たちの姿を見ていた廖さんは、南方澳の漁港に人一倍思い入れがあった。「その頃の漁船は漁法の機械化が進み、稚魚も獲ってしまっていた。このまま乱獲していいのか?」と思った。「南方澳の漁と自然を守るインストラクターになろう」と決心し、父と家族が生きて来た南方澳の歴史と文化を記録に残すための仕事を始めた。今、廖さんがいるこの場所には元は父の工場があった。一階が工場、2階は宿舍であった。工場閉鎖後に「南方澳文史工作室/三剛鉄工廠文物館」と命名し、一階は工場の機械の展示と物販、2階は廖さんの仕事場を兼ねた展示室になり、一時は三階でレストランも開いていたという(今はやっていない)。先に一階は骨董品屋と記したが実は工場跡で、壁の落書きは当時の職人たちがスケジュールや作業ポイントをチョークで記したものがそのまま残っていたのだ。廖さんに案内してもらおうと骨董品や「落書き」の史料価値が判って来た。2階には大きなスクリーンがあり、そこで、南方澳の歴史資料や写真が集められたデータベースを見せてくれた。南方澳漁港の写真も1920年代、1930年代、1960年代と分類され、1940年代のフォルダには太平洋戦争中、空襲を受ける港の光景もあった。南方澳は海産物が新鮮で豊富で、安いということもあって、海鮮料理目当ての観光客が訪れる。その観光客が土産物店を回りがてら文史工作室にも入ってくるという。この文史工作室にやってくるのは観光客だけではない。引退して子や孫に船を譲った元漁師や、南方澳の昔を知る古老もやって来て、廖さんと昔話をひたるといふ。2度目に私がお邪魔した時、昭和5年7月生まれの黄春生さんが来ていた。黄さんの父は南方築港の測量士だったが、日本人漁師の船で修行し、南方澳で台湾人漁師として初めて船を購入した。黄さんは終戦後、沖縄との密貿易をやっていたが、サンゴの採取と貿易で財を成した。蘇澳沖でサンゴが取れたという。黄さんは「サンゴの父」とも呼ばれている。翌日は黄さんの自宅に行って自慢のサンゴを見せてもらうことに。箱入りの真っ赤なサンゴは500万円だった。

## More!More!台湾♡

(文：You Li Xiang)

### 冷たくて熱いかき氷って?

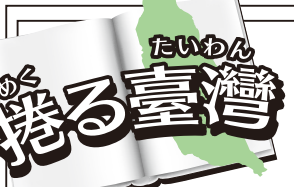
台湾といえばかき氷。でも寒い冬にかき氷を食べる気にもならない... だけどやっぱり食べたいという人にオススメのかき氷をご紹介します。そのかき氷は、屏東県の潮州鎮にある「冷熱氷」です。漢字だけ見ると、冷たくて、熱い氷。意味がわからないですよ(笑) 「冷熱氷」は潮州で発祥したかき氷です。かき氷のトッピングといえば思いつくのはマンゴーなどのフルーツですが、この「冷熱氷」は水自体がトッピングになっています! これまた不思議な感じがしますが、実は下にアツアツの芋頭(イモ)、花生(ピーナッツ)、湯圓(白玉団子)、紅豆(あずき)などの具材が入り、その上から冷たい氷をかけたかき氷なのです! 見た目はただのトッピングな

しのかき氷ですが、下からすくってみると沢山の具材が出てくるという宝箱みたいなかき氷なのです! 味も優しい甘さでやみつきになっちゃいます! アツアツの具材に氷がのせてあるならすぐ溶けるのでは?と思うのですが、なぜだかすぐには溶けないのも不思議ポイント。ただ、絶対やっつてはならないのが、混ぜること! 混ぜるとすぐに氷が溶けてしまうので要注意です。私は去年初めて「冷熱氷」を食べたのですが、その美味しさに感動してからというもの色んな知人にオススメしています。今回はこの場をお借りして、皆様におススメさせていただきます! 潮州は高雄からも比較的近いので、ぜひ

台湾南部へ行かれる際は寄ってみて下さいね!



氷の中にはアツアツの具材が!



### 『交錯する台湾認識—見え隠れする「国家」と「人びと」』

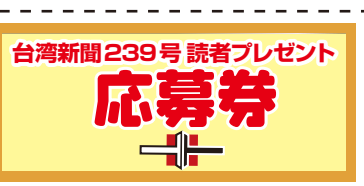
台湾は今、成熟した民主国家としての様相を国内外に示している。私達はこの台湾をどう理解したらいいのか。台湾に向き合い、理解しようとしても、日本人の台湾に対する認識や台湾を見るまなざしは、これまで世代や立場によって著しく異なり、複雑とも見られる。一体台湾人とは何なのか。本書は、20人の執筆者からの論文集である。三部構成の論文14篇とコラム6篇からなっている。第二次世界大戦後の台湾が、これまで歩んできた道のりを知ってもらう事を狙いとし、そのために様々な角度から執筆されており、台湾の現在のありのままの姿を描写しているところに特徴がある。複雑な歴史と民主化・本土化に起因するナショナルアイデンティティのゆらぎ、エスニックグループや出生地、世代などを起因とする変化や価値観やイデオロギーなどの過去。そしてIT大国として、新しい民主主義国家としての変化する現在。見る角度によって様々な姿を変える万「華」鏡のような「国家」の、過去と現在、

そしてこれからの可能性を提示しているところも興味深い。本書を読み終えた時、これまで抱いていたいずれの論考も、台湾認識も、新たにすることが出来る一冊といえる。【編者・岡野翔太さんからのコメント】この度、陳來幸・北波道子・拙編で勉強出版より『交錯する台湾認識—見え隠れする「国家」と「人びと」』を刊行させて頂きました。私は神戸生まれの在日台湾人2世で、今は大阪大学大学院に在籍し、台湾問題及びに華僑華人研究に取り組んでいます。本書は、少々堅い論文集ですが、「台湾人」とはどこからどこまでを指すのか、「中華民国」とは何なのか、台湾を奇跡的な経済発展に導いた要因は何だったのか。人、世代によって認識の異なる台湾を様々な角度から捉えました。是非、台湾に関心のある皆様手に取って頂ければ幸いです。

編者：陳來幸・北波道子・岡野翔太  
刊：勉強出版  
判型：A5判・並製  
頁：208ページ  
発売日：2017/1/11

#### 読者プレゼント企画

台湾新聞をご覧の皆様の中から抽選で3名様に本書「交錯する台湾認識」をプレゼント致します! 応募方法は、ハガキに応募券の切り抜きを貼り付け、お名前、ご住所、お電話番号及び台湾新聞へのご意見ご感想を明記のうえ、台湾新聞編集部までお送りください。当選のご連絡は発送をもって代えさせていただきます(3月中に発送予定)。締切り：3月20日(消印有効) 台湾新聞社編集部〒171-0021 東京都豊島区西池袋4-19-4 / tel:03-5917-0045



## てくてく台湾旅⑮

松田義人(deco/編集者・ライター)

### 台湾こそ子連れ旅行がお勧め!!

#### 小さい子ども連れの旅でもまず没問題な台湾

「台湾が好きだ」と友だちに言うと、アレコレ色んな事を尋ねられます。「どこが美味しいの?」「マッサージどう?」から始まり、知っている限りの事をアレコレ答えると「いいなあ。でも、まだ子どもが小さいからしばらくは行けそうにないなあ」と言われます。僕は現在45歳ですが、だいたい僕の友だちは同じくらいの世代かちょっと下の人たちなので、小さいお子さんがいる事が多いです。しかし、そんなときは決まってしまうんです。「いや、小さいうちから台湾に連れて行ってあげたほうがいい!」「英才教育としてもいい!」...これはノリで言っているわけではなくて、本当に僕はそう思うんです。日本の国内旅行ももちろん良いですが、同じか、場合によっては安く行ける事もある台湾。特に都市部は交通網が発達して子供連れでも無理なく移動する事が出来るでしょう。また、例えば夜市などには子ども向けのゲーム屋台も沢山あり、家族全員で楽しい時間を過ごす事が出来ます。さらに衛生面も優れているので、小さいお子さんの突然の病気の際にでも、都市部であればまず大丈夫。日本と同等の診療を受けられるはず。言葉に関しては、日本語を喋れる人が台湾には沢山いるし、あるいは言葉が通じなくても、台湾人の気質に甘えさせてもらえば、まず大丈夫でしょう。ちなみに、うちの長女は滞在中にうなぎの骨がのどに刺さり台北の病院へ、さらに次女は滞在中に水疱瘡になりやはり台北の病院へ、さらに僕も滞在中に高熱を出したり、耳にハエが入って出てこなくなったり

(本当の話)などで、何度も台湾国内の病院にかかっていますが、まずこの程度の事なら日本と大差がありません。病気のときは大変ですが、後になってみれば、それもまた台湾での良い思い出の一つになっています。

#### 遊園地から動物園、そして街中でも子連れが楽しい

小さいお子さん連れでの台湾の楽しみ方はさらに色々あります。遊園地、DIY体験(企業などが子どもたちに自社製品の制作を体験させるもの)、夏場なら海水浴、ノンビリ楽しめる温泉やSPAなど色々なものがありますが、特にお勧めなのが動物園。日本のように「動物を見に来たのか、人を見に来たのかわからなくなる」といった混雑はあまりなく、子どもと一緒にノンビリと動物を見学する事が出来ます。有名な台北市立動物園は、園内に遊園車があり、小さいお子さんでも楽に移動する事が出来ます。また、パンダからペンギン、コアウからフラミンゴまで沢山の動物を見学出来るのも嬉しいですね。また、高雄にある寿山動物園は、台北市立動物園ほどの充実はないものの、猿が放し飼いでおり、実際に触れ合う事が出来ます。ただし注意が必要なのは、この動物園の猿は結構なスレックラシで、小さい子どもの手持ちの食べ物などを強奪する事もあるようです。僕は台湾人の女の子が実際に強奪される様子を目撃しましたが、食べ物を取られるのはまだ良いにしても、強奪の拍子に子どもが転んだりしたら大変。楽しい動物園ですが、親御さんは細心の注意をはらって見学すべきです。さて、こういった子ども向け施設に向かうだけでなく、何度も家族で台湾に遊びに行くと、嬉しい事がもうひとつ。馴染みになった飲食店の店員さんなどが自分たち家族を覚えてくれていて、子どもの成長を喜んでくれる事があります。子どもに対して「すっかり小姐(お姉さん)になったわねー」なんて嬉しそうに声をかけてもらったり、いかに台湾らしい気持ちでいるのかを家族で台湾旅行ならではの思い出を共有するのにも家族での台湾旅行ならではの思い出です。



猿の強奪に要注意の高雄・寿山動物園の様子

## Photo de TAIWAN 第三回

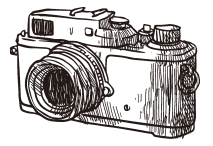
台湾在住20年写真家・熊谷俊之



### 屏東 原住民の結婚儀式

毎年3月に屏東で行われている「南島族群婚禮」を昨年「台湾原住民族文化園区」で撮影してきました。この結婚式は、主に排灣族、魯凱族の頭目貴族の儀式を踏襲した内容になっていますが、原住民だけでなく、漢人、また外国人の参加も大歓迎です。結婚の予定がある方たちは忘れられない思い出に参加されてはいいかがですか? 撮影日時：2016年3月

※本年より新たに写真で台湾を伝えるコーナー「Photo de TAIWAN」が始まりました。台湾在住20年の日本人写真家・熊谷さんの写真を通じて、まだ知らない台湾を発見してみてください!



## 台湾語で もっと台湾

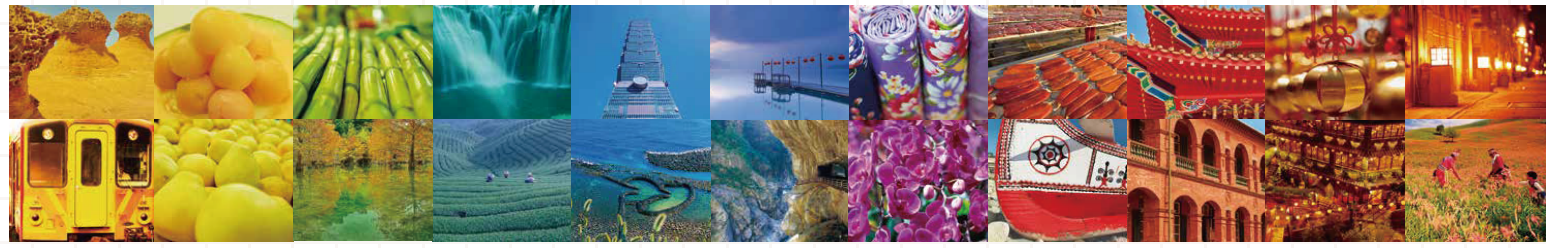
台湾では中国語の他に、台湾語も広く使用されています。台湾特有の言葉を覚えて台湾への理解を深めましょう!

～プロポーズ編～

- 台湾語：チャーリー・ゲイ・ホー・ワー・フー・ボ
- 日本語：結婚してくれませんか?
- 中国語：チンニージャ・ゲイ・ウオー、ハオ・ブ・ハオ(請你嫁給我、好不好)
- 台湾語：フー・ノ
- 日本語：はい
- 中国語：ハオ(好)
- 台湾語：ポ・アイ
- 日本語：嫌です
- 中国語：ブ・ヤオ(不要)

※台湾語は地域により様々な言い回しがあります。同コーナーでは一般的によく使われる台湾語をカタカナで紹介しております。

「Meet Colors!台湾」は、「自分のカラーを発見しよう」のコンセプトの下、「希望のパープル」、「悠久のレッド」、「静謐のエバーグリーン」、「優艶のピンク」、「感嘆のイエロー」、「衝動のグリーン」、「夢中のスカイブルー」、「誘惑のシルバー」、「無敵のブルー」様々なカラーによって台湾の美しい景色やグルメを紹介していきます。原彩色鮮やかなカラーを通じて台湾の観光名所の新しい魅力を楽しみましょう。皆さん、自分色の台湾を探して、身も心も元気いっぱいになりましょう!



# Meet Colors!

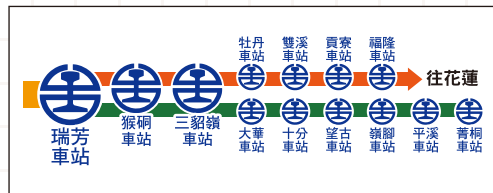
## 台湾

至福のゴールド

### ★ GOLDEN WEEK @ TAIWAN ★

#### 平溪線で巡る ゴールデンルート

平溪線は、新北市瑞芳区の三貂嶺駅から同市平溪区の菁桐駅まで走るローカル線です。平溪線沿線は昔、金鉱・炭鉱の町が多かったことで、周囲の鉱物運搬を主目的に敷設されました。また、十分駅では天燈(ランタン)上げも体験できますし、瑞芳駅で降りれば、九份や金瓜石にも行くことができます。



#### 福隆国際サンドアートフェスティバル 2017年は5/6-7/9まで開催!

新北市の福隆ビーチで毎年行われる砂の彫刻フェスティバルです。世界から砂の彫刻家が集まり作品を作り上げます。毎年様々なテーマの展示が並び、その迫力は圧巻です。



#### 工場見学でおいしい ウイスキーを試飲

【カバランウイスキー酒造】

ここは金車グループが制麦・糖化・発酵・蒸留・樽詰め・熟成の工程をすべて自社酒造で行っている、台湾初のウイスキー工場です。同社のウイスキーは「KAVALAN(カヴァラン)」と名付けられ、宜蘭の自然に恵まれ、中央・雪山山脈の清らかな水源を利用して造られるため、香り高い高品質なウイスキーとして全世界で認められています。酒造内では専門の解説員が宜蘭ウイスキーの製造過程を案内してくれるほか、試飲もできます。



住所: 宜蘭県員山郷員山路二段326号  
電話番号: (03)922-9000 #1104 休業日: 年中無休  
営業時間: 平日9:00~18:00、休日9:00~19:00

#### 佛光山佛陀紀念館

台湾の四大宗教の一つといわれている佛光山。その総本山となっているのが、高雄市にある仏光山寺と隣接する「佛光山佛陀紀念館」です。禮敬大廳、8つの塔、本館、佛光大仏などがあるほか、素食レストランもあり、観光客にとっても楽しめるスポットです。なんといっても黄金に輝く高さ108メートル、重さ1780トンの佛光大仏は一度は見ておきたい壮麗さがあります。



住所: 高雄市大樹区統嶺路1号  
電話番号: (07)656-3033#4002 休業日: 2017/3/7より火曜休館  
営業時間: 平日9:00~19:00、休日9:00~20:00

#### 林百貨

1932年12月15日、林百貨(ハヤシ百貨店)は、通称「銀座通り」と呼ばれていた台南一の目抜き通りであった末広通りに南台湾初の百貨店としてオープンし注目を集めました。その後敗戦による廃業などを乗り越え、2014年にリニューアルオープンされ、今ではモダンな雰囲気、の雑貨などが並ぶ台湾の人気観光スポットになっています。当時のままの姿のゴールドのエレベーターも是非チェックしてみてください。

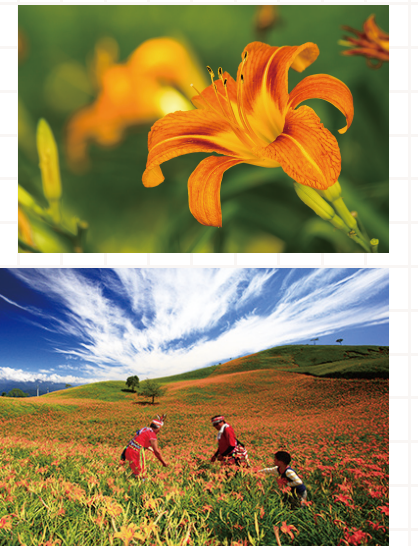


住所: 台南市忠義路二段63号 電話番号: (06)221-3000  
営業時間: 11:00~22:00 休業日: 年中無休

#### 黄金色に輝く海原 —金針花—

見頃 8月

8月は高山における金針花のシーズンです。花蓮県玉里鎮赤科山と富里郷の六十石山は、台湾国内における金針花の三大産地となっています。ここでは花をテーマにした盛大なフェスティバルが催され、各地から観光客が集まります。また、金針花は食べることもできます! 見てよし、食べてよしのゴールデンフラワーです!



#### Golden Food 定番



#### 台湾観光 イメージキャラクター 長澤まさみさんの 2大LOVEグルメ



#### 台湾北回歸線23.5°イベント (台湾夏至235)

(※235は愛上我(私を愛して)と似たような発音)  
台湾は中南部に北回歸線が横切り、熱帯と亜熱帯の両方の気候をもつ美しい島嶼です。島内には特色ある景観が形成されており、物産も豊富です。その「北回歸線」と「夏至」という特色を利用し、台湾初の夏の観光イベント「台湾夏至235」を企画しています。このイベントは、台湾観光局及び北回歸線が通る各地方政府との共催で、真夏限定の特別観光イベントです。今年は台湾の夏至をたっぷり楽しみましょう!

夏至スイーツ「愛玉ゼリー」  
愛玉ゼリーは台湾の原生植物であり、カロリーが低く、栄養素が豊富、また水分も多いためダイエットや暑さをしのぐ働きがあります。夏の猛暑には最適な食べ物です!